川越市立図書館蔵『芙蓉楼玉屑』（下）

―翻刻と解題―

久保田　啓一

己が心を尽すを忠とし、人をおしはかりて愛する等の事を恕とす。

敬持敬又居敬とも

朱子曰、主一無適之謂也と訓ず。聖人の道世に失ひて只書を讀の一事あり。聖人の心理氣象を伺ふべし。只六藝の教なきにより學者拘束する事なき故、此敬の工夫を立られたり。初李延年先生静座の教ありて、人七情未發の中何の氣象をかなすと云事を見せしむ。朱子曰、如此にては座禅入定に似む。事ある時は事に敬し、無事時は無事に敬するにはしかじとの給へり。一を主として行事なしとは、一事有時は其一事を敬して心地に行事なるを云。放心を収むるの法也。是は常懼（ヲソルヽ）さの法とも謝上蔡（27）はいへり。又整齊」（49オ）厳肅するを云とも釋す。皆心を治るの工夫なり。

中和未發中已發之中

七情未萌所なく湛然霊明なるは中也。已に動て發る時は種〻萬変に走ル故に、その發する所幾微の間とて髪毛を入ざる間を早く察し、善なれば長じ、悪なれば消すべし。是發して節に當る和也。聖人分上には生知安行思はずして中し、なさずして成べしといへ共、常ある人にしては思ひを致して幾微を察する修行あるべし。周子、（28）氣には善悪ありとの給ひしも此所也。

才德

才は材藝也。德は得也。得於己施於人者也と有て、我に天よりうけ得ても、或は業をも善をも心に得て是を人に推うつして施し行者也。」（49ウ）

鬼神

程子曰、鬼神は造化の跡也。天地の間生ずる物あり、盡る物あり、或はなし、或はうせ行の理、春は生じ秋は枯落す。なべて花なども開は造、散は化也。陰　陽寒　署（ママ）四季のすがた皆造花の仕業也。其始はしるべからず。其跡ありて著明也。是を造化の跡とす。又曰、二氣之良能也とて、陰陽変化千差萬別、皆（29）體をからず自然にあるを云となり。

道統之傳

韓文公原道に、堯舜より孔孟に此道傳え来る事をのべたり。是をうけて周子千載の緒を継て二程に至る事をみ、伊洛關閩の学とて朱子に系して其傳を系す。是を道統の傳とす。」（50オ）

性理学の書大概

性理大全　二程全書　朱子語類　皇極經世書
伊洛淵源録　玉山講義　大極圖説　近思録
小學
　後學には
(ママ)薛文成公讀書録　胡敬齋居業録
許魯齋集　丘(30)瓊山大學衍義　學的等也。
　其外六経には
程子易傳　朱子本義　東萊博議　胡氏傳
(31)経傳通解　詩書集注　四書集注
　史には
温公通鑑　朱子綱目等也。(50ウ)

五常解 五常始見泰誓未審何謂　　鳴鳳卿述

尚書帝典に、慎二徽(ヨクシ)五典一五典克從といへり。釋話に、徽は善也、美の字と訓を同じくす。五典孔傳五常の教とす。父義に母慈に兄友に弟恭に子孝なり。舜慎み善くして此五常を篤く行給へる故に、八元とて八人の賢士を擧給ひ、此教を四方に布せ給へる時、人みな此五教に從ひ、命に違人なかりしと也。又舜契の功を美とし給へる御舜にも、百姓不レハ親マ五品不レハ也遜ハ汝作ショリ二司一徒ト敬二敷「五一教ヲ一在リ寛ニ」と宣給へり。五教五典五品一事也。蓋父母兄弟を五品とす。家に五等尊卑の品あれば也。義慈友恭孝を五教とす。各一事を教ゆる也。五典、典は常也と訓じて萬古不易の義、古書皆如此。人の父たるには義を以教とし、母には慈を以し、自外の」(51オ)三教各一事を操る。五の道常にして不易の理あるを以五典といふ也。謨曰、五典五(ナカラ)惇哉とあるも五常の教をいへり。唐虞の間聖〻相うけて教をなすもの也。後世に至りて五常の名轉ず。親義別序信となり、仁義禮智信となる。ひとり五常の轉ぜるのみにあらず。五倫といへるも詩書の言はざる所、其義下に陳ず。

仁の言始て殷の時に見ゆ。爾後連綿書に出たり。孔子口を開たまへば仁を説せ給ひぬ。其解竊に別著す。孟子より盛に仁義と稱し、老莊も又しかなり。禮智信をあはせて五常と云事、邈古には未聞事なり。荀子子思の昉(ハジメ)給ふとうけ給る。

謹て按ずるに、孟子新に四端の心を説かれてより四行世に立、五行相傳フ。五氣に配して漢儒の説あり。宋」(51ウ)の諸君子是によれり。陰陽を乾順とし仁義を象れり。是より一定の説となりて五常といへば仁義禮智信と世擧て思へる事、古學をうしなへるの謂也。諸子百家説を馳騁す。聖人の道載籍極めて博し。然れ共要すくなし。元來帝の代教上にありて下の專らにする事にあらず。うけて行フのみ也。諸子以外の教起りて玄理心法世を嚇し、一己心身の上より説、上の道下の了解に落、紛々として極りなし。其要をとりて帝道を亂る。道の支離名義をうしなへる謂也。孟子曰、父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信と演説あり。即舜の契に命じ給へる事とあり。書の逸せるにや、今の文見る所なし。或は孟子古聖人の立教の意を演義ありしも知べからず。然れ共其言教以人倫」(52オ)ありて五倫共五常共の給はず。父母兄弟子を五品と称するにならはゞ、是も又十倫とこそ称すべけれ。五倫の名、後世に立る所なるべし。字書にも、人倫の大者五ツ、親義別序信也と云り。孟子によれるより名付て五倫となす。千載之下孰か是なる事をしらん。故に邈古の

教書に徴して古義をしらしめ、古書を讀に便りし、古の教を明にして五常解を述る事左のごとし。

父義。義とは義方也、宜也。古に人の非を為を禁るをも義と云。義の解多端也。古説得る所なし。徂徠先生先王之義とす。詩書義之府也と云を援引とす。よるべし。夫レ人の父たる、いづれか子の不義に陥る事をよしとせんや。故に義方を[32]口とし、時宜事宜土宜を教る者」(52ウ)は、子をして身を保、家を續、令聞令誉あらしめんことを思者也。上の三宜時[33]處位に随ひ、ことに時王の建る所の法により過なき事を本とす。抑先生(ママ)とは古聖王をも申、又其一代の先君をも称し奉る。先王の法言法服是也。事宜例してしるべし。萬事撰ぶ所ありて宜不宜多端也。其宜に随ふ事は、年老経歴のうへ、法をそらんじ事を計るのうへにかくれば、老者のことば父にあらずとも敬して取べし。古に二十にして冠し字付、はじめて父の道を基す。三十にして室を有し、家を治む。皆禮によれり。違ふ時は野合とす。されば禮とは時王の制三代同じからず。時宜土宜事宜の三が一也。是をしるは禮義の人也。唐虞ノ讓三代の継時宜也。吳服吳言をば上世にも免がれず。黥面文身」(53オ)荆蛮に逃るゝの類、魯人の猟狡孔子も同じくし給ふ。土宜のいはれ也。凡義によりて禮を制す、聖之謨也。叔世の吏治一〻法律に断ず。詩書を挾み偶語する時は秦の法弃市す。服非反唇漢律に身を喪す。面に唾して拭事なかれとは婁師徳が子に事宜を教る也。古今にわたり人の父として子孫を教る義をしらずんばあるべからず。聖人の道古に宜しく今に不宜といはゞ無智なることしりぬべし。

母慈。慈とは慈愛の義也。母の子を慈愛する、天性に出て加ふべからず。然るに慈をもて教ゆるは、婦人の性動もすれば偏頗なり。愛する子あり、不愛あり。妬悍の為に児をうしなへる例なきにしもあらず。慈和慈恵は愛の正とす。庶(ママ)藥たり共うめるにひとし」(53ウ)かるは、婦人慈愛の正なる也。或は愛して肥甘に過、飽暖にこえて子の身をうしなひ、はてははふれにたるも誡めず、不義を共にするの類、豈慈といふべけんや。今の世に母の教を失して子の身を殞す類あまたあり。されど父の義方を教るに母の慈なくば子成立べからず。母は生養を主る。父の義方相須て子を成すもの也。誰人のよめるにや。

父はうち母は抱てかなしぶを心かはると子はおもふらん

兄友。友とは友愛の義也。凡字義二字相須て意を成す時は意かはれり。此愛字、慈愛の愛とは意味聊かはれり。母の愛慈より出。愛するの至なり。友とは同志為友古義也。兄弟心を同じくして相愛するの心をふくめり。凡兄弟共に父母の分身也。兄弟友愛して」(54オ)志を共にする時は、父の業を興し、志を継、孝を勤めて家をなすべし。墻にせめぐは長たるの義をうしなへるより生ず。

弟恭。恭とは恭敬の義也。自高ぶらざるを云。兄長をうやまひ弟順の道を執なり。たとへ兄友愛の道を失すとも、相猶する事なく、自高とせず、兄をうやまひ長幼和順の方による時は、父の志つぐべし。父の業守るべし。家を治め家族を和げ、永く争論の道塞がるべし。

子孝。孝とは善事父母之義也。天下子なきの父母はあれど父母なきの子なし。孔子孝を先王の至徳要道との給ひて、古聖先王孝道をもて天下を治給ひし事をのべ給へり。人のみにあらず。凡飛禽走獸いづれか」(54ウ)子をかなしまざるや。禽獸には道をしるの智なし。

其したふは乳哺の間のみ。人として孝心なくば、生れし所に何をもてか報ぜん。子を愛せざる親はなきに、親を愛敬せざるの子もある、ひとり何の心ぞや。孝に始終の道あり。生時没後にわたりて天子より庶人に達す。孝経をよみて孝道の大なる事を辨別すべし。されば此五常父母兄弟は倆〻相對す。孝の孤行するがごとし。されど父母子と相對し相因て離れず。一孝立て万行の源にあへり。天子にしては天下を治、諸侯にしては國治り、太夫にしては家治り、士諸人にしては身修る。無為の化是より行はれて妻孥臣僕も徳に化し、世安全なるべきもの也。此故に聖人天下和睦の五教を設て萬世不易に賚し給ふ所、鑽仰奉承し奉るべきもの也。」(55オ) 古道に志ある人、高き賤きをいはず心をかたぶけざらんや。

予既述五常以國字便蒙士爾後閲徂徠先生辨名則五常解如予所述蹶然起曰躾中竅耶唯所援極確可敬因以藍墨副其側云

延享乙丑之冬十二月六日　　鳴鳳卿謹識

寶暦五亥夷則下旬　　門人　源鼎卿謹寫

并校訂　」(55ウ)

仁釋　　錦江先生述　　源鼎卿校

仁は学者第一に心得べき事なり。中古已来仁の事廣莫にして手を下す所なきがごとし。よりて説を立て心理に基け説る故、其説深奥にして禅の悟を説るがごとし。夫書生帷を下し燈を篝して数万巻を破談すとも、論語中最第一の仁の事を會せず。さらんには何の学をかいはむ。今こゝにしるせる所は、幼より此事を疑ひて壯歳に至益其疑網解事あたはず。五十歳のころはじめて古書を訂して稍〻に其解を獲るがごとし。因て和語に譯して蒙士に便りす。其説多くは徂徠先生が論語徵」(56オ) 根す。

敢て自家の説にはあらず。但愚鈍の質、思念して得たる所は書のつくす所にあらず。人〳〵工夫を下して獲給ふべき者也。

一仁とは治國安民の道也。聖人は古の天下國家を治給ひて、國豊かに民安かる道を立、蒼生を撫育し給ひ、其法後世に傳はり、これを聖人の道とは申にて候。末世の心法の沙汰とは聊かはりあるに似たり。六経を窺ひてしるべし。されば道とは術といふ心にして、聖人天下を治め給ひし術なり。其術治國安民の外に洩る事なし。其術の統領を名づけて仁とは申にて候。答問書に楽只君子民之父母と云詩を援て仁を訳し侍る。古今の卓見なるべし。」(56ウ)

一仁は人君の道也。儒者の道仁を本とする事は、古聖先王の道造士とて人を善人になりたゝしむる教あり。六藝を教へて徳を養ひ長養す。其皈仁に至らしめ、及ばざれば君子となり、其しもなるも士の道はうしなはしめず。各其才[34]に随ひて國家治安の術を助けしむ。故に仁を事とする事人君のみにかぎらず。されば士庶人といへども上に父母あり、中に昆弟朋友あり、下に奴婢あり。物を愛し天道に則とる事なき時は、不仁の窩窟に陥りて宗を亡ぼし家を失ふに至れり。仁君世を治め給はんに不仁者事を執時は、大小によらず其害をうく。されば仁は上下に徹するの道也。」(57オ)

一人をはじめてあめが下にありとある者、己を愛せざるはなし。己を愛するは人の情也。しかれ共己を愛するに過る時は己を亡ぼすの道也。仁者は己を愛するの心を推して人を愛し物を愛す。行所として物情にもとる事なきいはれなり。是を恕といひて仁の事也。古聖

先王刑政を立給ふ事も、其仁を長養して害なからしめむと也。申韓が術は己を利し、聖人の仁は天下を利す。抑天下は大物也。人情萬端にして朽たる縄をもて駻突を馭するに譬へたり。仁は至柔至和の道なり。君子の道醞藉を本とす。神書に彦火々出見尊と火之酢芹のみことを云。ほゝ出みのみことゝ申はにこやかなる顔を申。すそりのみことゝはおもゝちあしき」(57ウ)のたとへなるべし。幸とさちあらざると共に二道也。延喜の帝は臣下の諫をいはざらんことを恐おはしまして、常にゑみてぞおはしましけると大鏡にいへり。ありがたし。紀の南龍公、御駕の内にて民のみまいらする所にはゑまひつくらせ給ひしと古キ翁が申き。されば我を智ありとする時は、人其仁を輔けていさむることなし。以友輔仁とは其事を申にて候。

恋せずば人は心のなからまし物の哀はこれよりぞしる

仁をするの道にかなひたるよし古より申傳へたり。人情に通じて自他一様にあらんこと、仁の道なるべし。

一為仁とは仁をとり行ふこと也。求仁とは仁人を求得」(58オ)たる也。欲仁と云も同じ。論語中諸子に仁を許可し給はず、管仲のみ許可あること、古人より疑斷なり。諸子の仁は國家に及ばず、管仲は周室を貴び天下に及ぼし、齊公を輔翼せるが故也。皆治国安民にかゝれば也。囲也其心三月不違仁とは顔子をよびて告給ふ也。其心三月の久しきに及びて仁に違はじとする時は、其餘事は日々に至り月に至ると也。謹て按ずるに、孔子の時仁の鮮今のごとくにはあらず。必家常茶飯のごとくなるべし。常にこれをのべ給ふにてしるべし。吾道一以貫之とは、仁をもて貫き萬事を行給ふといふなるべし。曾子忠恕をもて釋せるにてしる。又學而不厭教人不倦是を仁也と解釈する事は、各分上をもていへるなり。天下に」(58ウ)仁を行といへるは人君の事也。下の事にあらず。されど其事を擴充せば天下に及ぶべし。故に仁と云。仁者不憂とは施べき術手にあるが故に天下を治むにも心づかひあらずと也。よりて治國安民の術とする時は論語中の仁一貫す。

一聖人孝道を以天下を順にし民を和げ給ふは天下の父子に仁する也。冠婚喪祭を立て禮を制し給ひ、八風にかたどりて楽を興し給ふは、天下を風化するの仁也。刑罰不仁を正し、政令は仁を滞らしめ(35)ざる料也。仁の大なるは如此といへど、約すれば己に歸す。此心をもてかれに行のみ也。君子の道通ずる時は天下を仁し、塞する時は己を克す。禹稷顔囲道を同し給ふいはれ也。」(59オ)

一孔子曰、力之不足なる者をみずとは、仁をおもへば則仁に至るの教也。世人なべて己をのみ愛して人を愛するにうときが故に、世を没ルまで仁聞なし。君子去仁焉成名とあり。終食之頃も仁にたがふ事なかれともものべ給ふ。されば依仁の心を常に養ふときは、智なきも智を生じ、才なきも才を生じ、父母の継體を損せず。刑戮に免れ仁を成する時は天下國家を利する。是を習学するが故に庸人も君子と成の道なり。おもふべし〳〵。(59ウ)

道解

錦江　鳴鳳卿述授
門人　源鼎卿訂

道とは摠括せる名也。道の外に道なし。分ち名付るは一道也。諸子百家及先儒一家の言を立て先王にかけざるは、皆其人見る所の道に

して是も又各一道なり。先王の道と申は古聖人天下を治め給ひし道也。浩荒のむかしは君ともなく民ともなく、上下尊卑わかれず。父子夫婦も分なく、いはゞ禽獣にかはる所幾何もなし。只性のまゝにして素樸なりしを、宓犧の神聖世に出給ひ、上天文を觀、下は地理を察しおはしまして始て八卦を画書し、書契を」(60オ)作り、結縄にかへ給ひしより、物のあやめわかれぬ。儷皮を聘とし夫婦の禮はじまり、網罟田猟を教へ、市の交易火の化を教へて庖厨の道おこり、羣類の長として自然の化を布せ給ひし也。君臣の始なるべし。神農の御時木をためて弓とし、けづりて耒耜とし、人の利を興させ給ひ、萬古の今萬國の末にも恵澤を傳へ給ふ。この君百草を嘗させ給ひ、病を救ふの道を授。軒轅の君車服の制居室の作あり。万類をめぐみ給ふ。凡厥始は毛をゆびきものにし、血をすひ、禽獣人を害し、六淫に侵され、巣に居りては覆り、空にすみては恙に毒せらる。此数聖人の徳」(60ウ)化よりこれをまぬがれ、生をたのしむ。其後后稷樹藝の道をはじめ給ひ、生生の恩澤尽る期なし。是皆世を救ひ民を恵む仁の至れる御ことを憶べし。唐虞の君古にしたがひかんがへ給ひ、諸の道を弘給ふ。暦道をはじめ時を授、父母兄弟子五常の教化を施し、禮楽を用ひて天下を治るの道を立給ふ。禮は伏犧に権輿し、楽は黄帝に渕源す。後世其傳をうしなへる事、萬生の不幸ならずや。しかしより禹王の水土を平げ萬世の貢税を鑑むべし。文武の后古樸の道を潤色あり。周公に至りて制度文物炳煥たるも其際数聖人を更奉り、数千年の星霜をつみて此治國安民」(61オ)の道備りぬれど、聖君上に出給ふ代もなし。獨孔子上は堯舜を祖述し文武を顕章し、列聖相傳ふる所をあつめて折衷せり。然れ共位を得て制作し給ふ事なく述して世に傳へ給ふ。道の大統此にあり。これを先王の道とす。いはゆる治世安民の事也。

天之道地之道人より立たる名也。古聖先王の道も跡をもて名付ぬ。天地の道は人の窺所に自然に其道あり。昼夜四時を行(36)れ、日月星辰運度有を以しる所なり。聖人裁成輔相して化育をたすけ給ふ。生長収藏皆生さのすがた也。世人は是を伺ひ、其智巧をもて計り、象をみて計り、数を立て計り、理を以計る。其究」(61ウ)限あり。限あるは天の道にあらず。近世蛮術の徒天を論、唯有象実測によりて形體に限る。人の計る所及べからず。唯上古聖人深く計遠く察し給へる道窺べく見るべく思べし。聖人の詞甚高からず。皆中極にして人しるべく窺べし。遺書に徴して思べし。されど道は聖人萬世の治術、人を恵給ふ至仁より出たる事なれば、唯聖のみ聖をしる。常ある人の其渕底をしるべきにあらず。如天の悳其しるべしといふも、理数を尽し思ひをいたしてしるのみ也。道も亦限なし。限あれば大道却而小に落。後世道の岐するいはれ也。智者は慎みていはざるにはしかじ。わづかに言筌に落るの言を思へば也。且聖人を恐」(62オ)ざる罪あり。道を陰陽にかたどり五行に配するも後人の撰なり。天地の心は度ルべからず。敬天を元とするは聖人の道也。凡俗のいふ所にあらず。しばらく道は聖さ相承て治国安民の為に立給ふ事とし、(37)闊き古書に砌するも待べし。我聖人にあらず。しるといふも皆一端なれば也。道を統名とする事は、聖人名を立て教給ふ。是名教也。五典五常五教仁義礼楽孝悌忠信の類也。三墳五典其書亡ぬ。しるべからず。九丘八索何事にかありけん。世にある三墳は偽也。連山帰蔵又しかなり。此道堯舜より明か也。古聖人伏犧神農黄帝治世

安民の道各あり。其代にありてはあまりあるにあらず。足ざる所なし。素樸」(62ウ)の代しかり。物生ずれば種〻の道生ず。化〻の道しかり。周の文物盛なる、上世に勝れたり。礼楽刑政沿革あるといへど、治世安民の義二ツなし。故に古聖人の道大にして外なく上にありて下を馭す。夫より以降は此道上に廢して下にあり。諸子百家各一家の言を馳騁す。是をもて天下國家治むべしとす。老子のごときは大素にかへさむことを思ひて仁義を小にし、礼楽を芻狗とす。周道陵夷し礼文費たるをみればなり。黄帝を祖とす。是又一道也。然共道は聖〻相承てかはらざるを道とす。質文は時也。老子の道道にあらざるにはあらず。道の一端也。古聖先王上下相貫せざれば也。楊氏の道墨子の道、皆其道を道とす。時を」(63オ)救の論也。是なる事は是にして先王の道にもとれり。又道の一端のみ。孔子の道といへど七十子分散して國〻に傳説する所、各其一家をなす。子夏易韓詩左羊穀三傳の類是のみ。源同じくして流分ル。申韓が学老子よりいづるも又しかり。孟子性善をはじむれば、荀子性悪と反す。公孫竜堅白吴同、諸家是を排す。其究学問の道争論の道となり、宋人ことに盛也。百年にして論定ル。今の世となりては老荘儒佛にあつまりて水火攻撃す。是皆無用の辯にして教に害あり。学者の風俗甚あしく、先王の道隠晦せしよりなれり。尓来世〻の賢主、漢文光武照(ママ)烈唐太宗の君のごとき誠不出世の明主にてわたらせ給へど、」(63ウ)古道の絶しより教ある事なく、自ら其智を用ひ先王の道によらず。時の輔佐も古を師とせず。道岐して古今となり、礼楽亡びて治道を失ひ、[38]吏治のみ眼前を利して敦朴を事とし、下の賢士も陶鈞の化にあはず、自ら見る所にとゞまるゆへ、人材古に降ル事相萬す。古道のすたれて民を軌物に入ざれば也。いづれの代にか聖人の道を崇幸(ママ)せざらん。しかるに道は先王の道なる事を専らとせず、一端を用ひて道とするが故に、夷狄直情径行の道さへ流行して中國左衽に淪す。漸ある事しかなり。されば儒墨老佛各一道を立るものにして、自外道と世に称せるは皆是先王治世安民の道四分」(64オ)五裂したるものなり。

周已前は礼楽をも道と云。道とは術と云事也。先王の治術全く礼楽にあれば也。凡上下尊卑を分ち、冠婚の道を時にし、葬祭誠信にし、官儀をたて、國郡を界し、野を經し、井を画し、鄰保を組、五服を制し、五刑を定め、社稷山川より上は鬼神に奉じ、下は細民紅女獄訟質劑制器草木昆蟲の瑣琗(ママ)に至まで洩す所なく一途に帰せしむ。凡風を移し、俗を易、邪を閑ぎ心を正し、楽みて滛せず。鬼神を感和し陰陽を燮理す。不知不識して善にすゝみ徳に帰するは楽の妙也。道とするも豈むべならずや。此道既に亡」(64ウ)びて考べからずといへども、其情書契にもとむ。聖人天下を御するの妙道をしるべし。是文章著明なる教のゆへに是を文ともいへり。聖人天道をうけて教を立給へるゆへ、春秋は禮楽冬夏は詩書、陰陽にかたどれり。礼楽身にあるを君子ともいへり。有道又しかり。射御書数皆礼楽統す。礼の大なる名五、吉凶軍賓嘉の礼也。楽六代あり。雲門咸池大(ママ)詔大護[39]大武とす。数聖人の制作なし給へる事物今に存せざるをうらむ。礼の缺典あるも遺経其彷佛をしるべし。楽声を喪せしより唐土にしては考る者なきを、我日本古の聲を残せり。豈幸にあらずや。或人の曰、楽経秦火に亡ぶと。楽に經あるべからず。譜」(65オ)の類のみ。聲をうしなへるは唐土の不幸いふべからず。宋の時范鎮司

馬光律を爭ありて決せず。一生を尽す。真黍出なば度を制して楽を制すべきに論決す。黍をつみ律を制するも一端にして聲音の違耳譜によれり。楽制作の時至らば、百書により古物に質し、古音聲をしるしとすべき事、我日本のみ也。矧治平百餘年、文化大に開け古典の逸せるもの我にあり。制作の温故便ある事をしる。

古典に出たる所、君臣の道父子の道夫婦の道といふをはじめて、聖人名教を立て人を導き給ふは、皆治世安民の為也。夷狄之道妾婦の道小人の道種〻の道あり。或は其自ら道とする」(65ウ)所を名付て其道といふ。是皆先王の道を分つる為也。是をあはせて天下を統領し世を治め民を安ずる道を惣括せるの道としるべし。古書に徴する所右のごとし。

或問、子が道を解する、徂徠先生辯道の趣にして、古聖先王の道崇尚すべき事明かなり。しかるに今我日本海の東に居て此國の道あるべし。今日の處置如何。答曰。

我日出の國先王の道あり。是を神道とす。但今の神道といへるは、多は神祇令の分掌して下社職の家に移し、あるは神社に残れる物也。多は巫覡の執る所、神を敬するには是也。我昔王道」(66オ)あり。朝廷にありき。上の御する所下として謀るべきに非ず。謀るは礼にたがへり。和の律令格式猶存せり。謹て考べし。其神祇の奉崇は神書あり。謹按ずるに、中興武将より海宇一変し、室町殿にして又大に変ず。朝廷の重事大事文武の大柄、皆是公方様に帰す。就中我公方様、慶元以来公武の諸法度あり。車書一同せり。諸侯を立らるゝ事三百家也。御家人御譜代外様の別あり。共に世禄にして帯礪の盟渝る事なし。特に御譜代御直参の事、子孫相續の道は和漢の古にもあらざる所にして、養嗣の法厳重にして、服忌の制」(66ウ)軍制立法の本となり、家を續て斷絶する事なし。爵位五等に比して公卿四品諸太夫士とわかれ、共に家人父子のすがたを表す。周家封建の意也。勧懲黜陟の典皆関東の御沙汰なれば、農工商賈四方條令あり。封疆に縣れり。士民法による者久し。謹て古に比せば周典の禮也。我日本禮あらずと思へるは儒子其見聞に狃て察せざる者也。礼隠然として今に行はるゝ所法とのみ思へるは謬れり。所謂禮は文とも道とも古にいへれば、今の御大法と称せる所古の礼としるべし。是をしらず講明せず、士民此時に立べき所なし。固陋の子弟才かに書を讀事をしれ」(67オ)ば古をのみ道ありとす。今のよる所をわする。或は神道を学び失して御大法をはなれ、或は儒書をよみ失して官命にたがひ、或は老荘の教を失して時務をあやまり、或は佛教を聞あやまりて政令を犯すの類、指屈するにひまなし。大なる者刑流、小なる者は厳譴に坐す。思べし、誡むべし。凡諸道其家に非ずして自憙する者撰ぶ所あるべし。然らば則古聖人の道と称する者今に用所なき欤といはゞ、しかはあらず。御代〻御条目の始に文武の道を兼備すべし、或は忠孝を勵等の文、首として出さる。文武に對する時は儒術をいへり。道に通ぜざる者は窒礙ありとす。道豈古にのみ行はれて」(67ウ)今に行はれず、彼にのみありて我にあらずとせば道ならんや。但それ古の義をもて今の義となさんとし、人の道を守りて我道とせんとするは先王の道といふの意にあらず。凡書算醫軍暦等聖世に助けあらんは、其器に應じて習学するも可也。弓馬は士の道、論に及ばず。農工商賈亦しかなり。学ぶ所擇を宜とす。家にあらぬは先務にあらず。是古の六藝の岐せる所の者は身を脩るの便と

なる。一藝にわたる時は萬法に通ずる事あり。すべて命令時に下る者は謹て服膺し首領を保事、中下に達して保身保家の道也。御太法の古の禮にひとしき事を識得了解せば」（68オ）今の時に當て思ひ半に過て道しれる者也。是今日の處置先王の道に通ずる者にあらずや。

（以下余白）　」（68ウ）

東都　山岡浚明　跋

山印浚明（印）　字曰子亮（印）　」（跋一ウ）

（遊紙）　」（71オ）（71ウ）

雲中白雀（印）

先王之道。卽孔子之道也。孔子之道。卽治世安民之道也。治世安民之道。卽禮樂制度是耳。百官庶民各有職。共於君。佐於化。所以報天也。有位者推轂賢材。無爵者教育英才。以擬有用焉。譬諸猶聚材者。曲直袤邪。校短量長。惟器是適。豈天下有棄材乎。所以令亾棄材者。」（跋一オ）大匠之良也。今者錦江先生有焉。其學以經世爲術。詢詢乎藎道人。復好待問。有人來叩之者。應于大小。然後盡其聲。猶百圍之竅穴也。吹萬不同。咸其自取焉。陶冶之以化。從容納於檻栝之内。有不識其力者矣。豈不梗楠豫章蘆薍之屬。俱収並蓄。待用無遺者乎。先」（跋一ウ）生又富著述。其爲書。大氐以教戒爲務。如爲編者。別有録外之一言一句。有示與於人者。則中羹探之索之。隨出隨記。彙之為函。名云芙蓉樓玉屑。皆國字書也。其意蓋爲攻堅木者。先易者。後節目。令相説以解也乎。云玉屑者。可知別有下和隨侯者在矣。今夫此舉也。可」（跋二オ）謂有力焉。且中羹從遊於先生。有年于茲。學已成棟梁之材也。予常爲知音之交。能知其情態。故推之爲先生之忠臣。其誰謂之強也。

寶暦丁丑春三月

注

(27) 本文「謙」――「謝」（墨）。
(28) 本文「幾」――「氣」（失）。
(29) 本文「體ゐ」――「ゐ」を朱点で見消にする。
(30) 本文「瓊」の字なし――行間に「瓊」（朱）と補記。
(31) 本文「典」――「傳」（朱）。
(32) 一字分空白。
(33) 本文「處」の字を書き損じて抹消――頭欄に「處」（墨）と補記。
(34) 本文「材」――「才」（朱）。
(35) 本文「ぬ」――「さ」（朱）。
(36) 本文「ひ」――「れ」（朱）。
(37) 本文「閣」――「闊」（朱）。
(38) 本文「吏」――行間に「吏」（墨）と補記。
(39) 本文「文」――「大」（朱）。